

農業団体を中心に反対してはいますが、十年後に確実には海外産米が入って来ます。輸入された時の対策を指導しないといけないのではないのでしょうか。生産者には米を安くしないと海外には対抗できないと言っています。が、これでは生産者の助けにはなりません。生産者も助けるためには手取り価格を上げて、なまかつ米の販売価格を下げなくてはなりません。方法論の一つとして多収米に着手していますが、一俵当たり八俵から十俵一俵に増えれば手取りをカバードきます。販売価格を逆算してどう対応していくか考えることが肝心です。

また、農水省では海外に米を輸出していくという方向を推進しています。が、穀物類の消費はアジア圏が70%にも達し、自国で米を生産していません。しかも市場が少ない。高橋隆をターゲットにして取り合いになっていいます。PPP問題も含めて通年玉として輸出できるマーケットを確立して提案してほしいものです。小麥粉から米粉に代替するのは一俵五円まで

必要ですが、この三年間で無農産物増産通常の五倍から八倍まで伸ばせばいくといった栽培技術を確立しました。四年目の今期は一・五反で二期作に挑戦していく計画です。現状では多収米の評価は低いです。将来的にはコシヒカリ、あきだまの多収性を検討しています。また、二十六年産米はハナエチセンとの兼ね合いもあります。遊資みずかがみの販売も予定しています。ありがとうございます。

「求められているもの」のマーケティング調査が栽培技術を確立し米の二期作に挑戦。二十六年産米の計画について教えてください。栽培技術を確立し米の二期作に挑戦。二十六年産米の計画について教えてください。栽培技術を確立し米の二期作に挑戦。二十六年産米の計画について教えてください。

# 農業成功の秘訣とは

## 「マルシェ出店」「情報発信」

農業経営者などを展開している経営革新等支援認定機関が主催する「大阪中央区」主催の「農業成功の秘訣」(7ヶストスピーカーに学ぶ)が三月二十七日、新大阪丸ビル新館四〇二号室で開催され、近畿各地の生産者、流通関連業者などを中心に多数参加した。

「マルシェ出店」「情報発信」の目的とその効果についてと題して講演した。緑化協会は泉佐野市以外にも大阪市内の淀屋橋。donaで開催される。農産物の出展ブースは賑わっているという。米穀関連では東日本大震災後、山下食糧園(大阪市東成区)が出店。東北産米を応援するなどの米数販売から注目されている。

「農業成功の秘訣」講演会の会場。農産物の出展ブースは賑わっているという。米穀関連では東日本大震災後、山下食糧園(大阪市東成区)が出店。東北産米を応援するなどの米数販売から注目されている。

# 良6次産業化交流会開く

## 奈良県6次産業化サポ

「トセンター」奈良県主催による「6次産業化交流会」が三月二十六日、橿原万葉ホール(奈良県橿原市)で開かれ、生産者、加工関連業者、6次産業化プランナーを中心に約三十五人が参加した。また、会場では参加した生産者グループが五社出展、自慢の商品をPRした。

# 「使命感」設定必要

「使命感」設定必要。事業の「ビジョン」設定が必要。使命感を設定する必要がある。事業のビジョンを設定する必要がある。使命感を設定する必要がある。

水ナスパーティーを開催した。また、五月五日に関西空港と水都野菜コラボイベントのVCE☆SKYを開催する他、今年にはシンガポールに泉州ナスを出荷していく計画だ。と語っていた。今後については「地域を大事にして、栽培地を訪れてもらい五感で感じてもらうことが農業の神髄だ。従来の農業はお金儲けのツールとして捉えていたが、農業の多面性に気付いた。農業の可能性を五感で感じて外に引き出ししていくことが重要になってくる。これを構築して若手農業者に伝えていきたい」と述べ、今後も積極的に展開していく計画だ。